

● はじめに ●

人工呼吸器と聞いてどんな印象をお持ちでしょうか？

「いろんなボタンやら機能が付いていてとっつきにくいヤツ」

「やたらとヒステリックに甲高いアラームを鳴らす気むずかしいヤツ」

「裏で何をやっているのかわからない謎めいたヤツ」

というような印象をもって、できれば人工呼吸器とはお近づきにならずに済ませたいと思っている方もいるかもしれません。

確かに、人工呼吸器には何だかよくわからないアルファベットの名前が付いた機能がやたらとたくさんあって、人工呼吸器とわかり合いたいという医療者の気持ちはいともたやすく挫かれてしまいがちです。

ところが、患者さんの側から見てみると、人工呼吸器がしているのはとどのつまり患者さんが自分で十分に息を吸えないときに外から圧をかけて手助けする、という割とわかりやすい肉体労働系の作業で、それほど摩訶不思議に高度なことではありません。

人工呼吸器を扱ううえで最も重要なのは、人工呼吸器の見た目の難しさに振り回されるのではなく、患者さんの病態を理解し、それぞれの病態に合うように呼吸を手助けすることです。みなさんが人工呼吸器取り扱い説明書ではなく、人工呼吸管理の本を手に取っているのは、器械の操作方法に詳しくなるのが目的ではなく、**患者さんの病態に合わせてどのように使い分けるか**を知りたいからではないでしょうか？

タイトルにもあるように、本書は「**病態で考える**」ことに重点を置いて人工呼吸器を設定・調節し、トラブルに対処する方法を説明しています。「どんな患者さんにもなんとなく同じようなお仕着せの設定にするのは卒業したい」「自分で考えて人工呼吸器を調節できるようになりたい」という方に是非読んでもらいたい本です。

どのような知識レベルからでも読み始められるように、本書は内容によって次の3段階に分かれています。

★★★：すべての人向け

★★★：基本がわかって、すこしステップアップしたい人向け

★★★：もっと人工呼吸器を使いこなしたい人向け

「まずは基本から」という方は★★★の項目だけを通して読めば、それだけでも日常診療に役立つ体系的な知識が身につくはずです。「基本がわかつてきたので、もう少し詳しく知りたい」という方は★★★に加えて★★★を読めば、同僚や後輩から呼吸管理についてややこしい質問を受けてもたいてい答えられるようになるでしょう。「バリバリ人工呼吸器を使ってやるぜ」という熱い志をお持ちのかたは、★★★から★★★までを通して読めば各項目のつながりがわかってさらに理解が進みます。

人工呼吸管理の考え方を身につけるのが目的なので、本書ではそれぞれの疾患についての人工呼吸以外の情報はあえて省いていますが、その代わり日常診療で遭遇するような人工呼吸についての疑問にはなるべく詳しく答えるようにしています。

それでは、患者さんと患者さんの肺に優しい人工呼吸管理をいつしょに考えてみましょう。

2014年8月 機内にて

田中竜馬